

データサイエンス入門（担当：宮川） 評価基準

※上位レベルは下位レベルを含むものとする

達成目標	C
記述統計の基本手法を理解し、データの集約・要約・可視化を行うことができる 35%	教員の具体的な指示に従い、データの種別に応じた集計とグラフによる可視化を実施できる
確率の基礎概念と代表的な確率分布の特性を理解し説明できる 15%	確率変数の例を挙げることができる。確率の基本計算ができる。
推測統計の概念を理解し、母集団の特性に関する初歩的な推定ができる 15%	手順の具体的指示に従い、推定量・信頼区間の計算を行うことができる。
仮説検定の手法を理解し、初歩的な検定を行うことができる 35%	手順の具体的指示に従い、例題の仮説検定を実施することができる。

B	A
<p>資料を参考にしながら、データの種別に応じた集計とグラフによる可視化を実施できる</p>	<p>一次元データにおける主な代表値の意味を説明できる。資料を参考にしながら自分で代表値の計算ができ、グラフとあわせて状況の把握ができる。</p>
<p>確率分布の基本概念を理解し、初歩的な例を確率分布表として表現することができる</p>	<p>授業で紹介した代表的な確率分布について、その特性・適合する事例を挙げることができる。グラフの概形をイメージできる。</p>
<p>推測統計の考え方や基本的な用語、標本平均の分布の特徴を説明できる。</p>	<p>信頼区間の意味とその計算方法を説明できる。資料を参考としながら、ある分布における母数の信頼区間を計算できる。</p>
<p>仮説検定の考え方や基本手順・用語を説明できる。</p>	<p>指定された仮説設定・仮説検定手法により、資料を参考としながら、仮説検定を適切に実施することができる。</p>

S

二次元データの関係を表す主な係数の意味を説明できる。資料を参考にしながら自分で係数の計算ができ、グラフとあわせて状況の把握ができる。

授業で紹介した代表的な確率分布のパーセント点とp値の計算ができる。

資料を参考としながら、授業で紹介した全てのケースにおいて母数の信頼区間を計算できる。必要なサンプルサイズを計算できる。

与えられた条件に合致した仮説設定・仮説検定手法を選択し、適切に実施することができる。